

教科	道徳	単元名	SL 公園で
----	----	-----	--------

本時のねらい

正しいと判断したことは、自信を持って行おうとする態度を育てる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・各自が考えたことをタブレット PC に入力し、ペアや全体での交流の際に活用する。
- ・挙手による発表だけでは、1 対 1 のやりとりや発表した特定の児童の考えのみが取り上げられることが多いが、タブレット PC に考えを入力させることで、全員の意見や考えを共有することができ、多様な考え方にふれることができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC
- ・SKYMENU Class 「発表ノート」
- ・書画カメラ
- ・プロジェクタ
- ・スクリーン

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○正しいと思う行動に手を上げる。 (例：道で石を投げて遊ぶ、立ち入り禁止のところへ入らない、図書館の中では静かにする等)	
展開 (25分)	めあて「しんごは自分のことをどのように考えていたのだろう」 ○範読を聞く。 ○しんごの気持ちを考える。 ・しんごはどうして SL に登らなかったのだろう？ ・女の人から声をかけられた時のしんごの気持ちは？ ○ワークシート（発表ノート）に自分の考えを入力する。【写真 1】 ○それぞれの考えをペアで交流する。【写真 2】 ・発表ノートを見せ合いながら交流する。 ○考えを全体に発表し、交流する。 ・他の児童の考えで良いと思う意見や言葉をワークシート（発表ノート）にメモしたり、考えを付け加えたりする。	・範読の時間は書画カメラにてスクリーンに教材を投影する。 ・事前に配付したワークシート（発表ノート）をスクリーンに投影し、教師が書き方を説明する。 ・児童全員の発表ノートをスクリーンに投影する。必要に応じて個人のノートを大きく投影し、評価をしたり、他の児童の見本にしたりする。 ・発表者の発表ノートをスクリーンに投影し、全員で共有できるようにする。また、投影した内容に対して、教師が問い返しをしたりして、内容を深める。
まとめ (15分)	○学習のふり返りをする。【写真 3】 ・ワークシート（発表ノート）に入力する。 ・口頭による発表と画面投影により全体交流をする。	・発表している児童の発表ノートをスクリーンに投影する。また、挙手できなかった児童の書いた内容もスクリーンに投影し、全体で共有し、考えを深めていく。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】 児童全員の発表ノートをスクリーンに投影し、考えを入力しやすいよう教師が児童に支援している場面。



【写真 2】 ペアの児童と発表ノートを見せ合いながら、考えを交流している場面。



【写真 3】 発表者の発表ノートをスクリーンに投影し、全体で共有している場面。

児童生徒の反応や変容

- ・道徳の授業では、たくさん発表できる児童が活躍して、声を出すことが苦手、自分の意見に自信がない児童の考えが見えないことが多かったが、発表ノートを教材に合わせて作りかえて活用することで、考えを表現しやすくなり、道徳の時間を楽しみにする児童が増えた。
- ・書くことに抵抗のあった児童も、端末を活用して考えを表現する機会を重ねることで、書く内容の量が増えてきた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・道徳の授業での ICT 機器の活用として効果的な点は、個人の思いの共有や考えを広げることがしやすいことと考えている。
- ・スクリーンで児童の意見を取り上げている場面で、手を挙げられない児童の考えを取り上げ、繋ぐことができた。
- ・ICT 活用時の問い返しや道徳的価値を深めていくことを研究するとともに、書く、思いを伝える、繋ぐ、深める活動の両立ができるような授業づくりを考えていきたい。